

平成 29 年度市民大学 (A コース)  
東大和の自由民権運動の里探訪  
(2017.07.08)

## I 自治の道を知らん(衆楽会)

### 1 自由民権のめざめ

明治 7 年 (1874) 1 月 17 日、板垣退助、後藤象二郎などにより「民撰議院設立建白書」が提出されました。選挙により議会を開設して、「・・・天下ノ公論ヲ伸張シ、人民ノ通義権理ヲ立テ、天下ノ元氣ヲ鼓舞シ、・・・」を求める提案です。

#### 県令中島信行の就任

明治 7 年、当時東大和市域の村々が属していた神奈川県に、県令として中島信行(元土佐藩士、土佐勤王党に加盟、脱藩、長州藩の遊撃隊に加わり、その後坂本龍馬海援隊門下生)が就任しました。

中島県令は、明治 8 年(1875)6 月に開かれた第一回地方官会議で、県民の自治意識の昂揚を説き「地方民会の公選」を主張します。早くもその地方官会議を傍聴して新たな空気に直接接触したのが三多摩民権運動の指導者石坂昌孝、わが蔵敷村の若き内野左衛門(20 才)でした。

◎明治 7 年 2 月、深沢権八 勸能学校卒業(石井道郎 戸倉物語 p131)

◎明治 7 年 4 月、板垣退助ら高知に立志社を設立

◎明治 7 年 2 月から 8 月頃までの間、千葉卓三郎投獄される。(相沢源七 千葉卓三郎の生涯 p 39)

#### 地方自治の萌芽

明治 9 年、10 年と小学校の整備が進み、地方制度の変革が行われ、明治 11 年(1878)、市区町村制のもとに、多摩は南、北、東、西の四郡に分かれます。

戸籍、徴税、徴兵と諸制度が展開する中で、村人の間では、自由と権利を主張して学習会、読書会がもたれ、演説会が開かれて、政治結社がつくられました。その活動とエネルギーはついに、国会の開設(明治 14 年・1881)に実りました。この過程で展開された運動が自由民権運動でした。

◎明治 9 年(1876)、鎌田喜三 15 歳で、東京に留学

◎千葉卓三郎、「同四年六月ヨリ同八年四月マテ東京駿河台ニ於テ魯人ニコライニ就キテギリシヤ教ヲ学ビ、兼テ魯学修メ、其五月ヨリ同九年二月マテ市ヶ谷ニ於テ安井息軒ニ従ヒ業ヲ受ケ、其四月ヨリ同十年一月マテ仏人ウィグローニ就キカトリック教ヲ学ビ、(履歴書)

◎深沢権八、村用掛となる。16 歳

自由民権運動は全国的に展開されました。特に、板垣退助、片岡健吉、植木枝盛などを輩出した高知県の旧士族層を中心とした土佐立志社を運動のさきがけとして、東北の石陽社、大阪の愛国社など連鎖的に各地へ拡大しました。多摩もまた、明治前期の神奈川県時代、この運動の先頭に立っていま

した。

多摩の場合、運動の中核を豪農層が担ったという点で注目されています。多摩の豪農層は、一大消費地であり政治の中核、情報の発信地である江戸・東京に接していると同時に、生糸貿易を通して横浜港との結びつきを持ち、早くから海外の情報が入り、経済的にも思想的にも新しい動きに敏感になっていました。

この時期に、東大和市には、多摩の自由民権運動の先駆けとも評価される衆楽会をはじめ、貴重な歴史が残されています。

## 2 衆楽会（しゅうらくかい）

村山貯水池が出来るずっと前、芋窪石川にあった石沢山愛染院＝蓮華寺で、新しい時代を目指す画期的な活動が開始されました。多摩の自由民権運動の先駆けとされます。

これまでは明治 11 年(1878)5 月、南多摩郡野津田村(町田市)の結社「責善会」(せきぜんかい)で行われた活動が最初と考えられていました。

それが、一先早く(4ヶ月)、明治 11 年(1878)1 月 17 日、東大和市域で開かれていました。(蓮華寺イメージ図 星野晴一氏原画をもとに作成)

それは「衆楽会」と呼ばれました。芋窪村と蔵敷村の人々が集まり、「自治の道を知らん」と学習と討論の会を発足させていました。内野家の文書庫に開校式の次第が残されています。



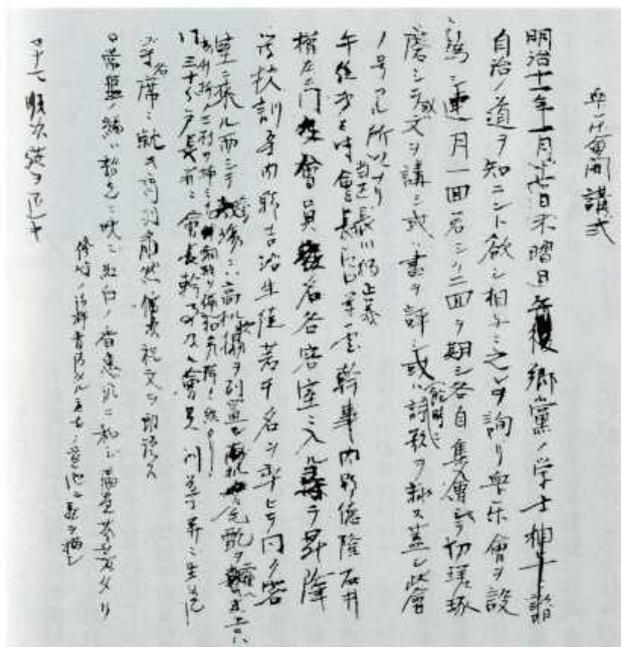
明治十一年一月十七日(木曜日)

「郷党ノ学士自治ノ道ヲ知ラント欲シ、相与ニ之レヲ謁リ衆楽会ヲ設為シ、連月一回若シク(ハ)二回ヲ期シ、各自集会シテ切磋琢磨シテ、或ハ文ヲ講シ、或ハ書ヲ評シ、或ハ余時ニ詩歌ヲ詠ス、蓋シ此会ノ号アル所以ナリ」として開始されました。

### 集まったのは

- 芋窪村区長 川鍋正義
- 会長 江口栄雲(昇隆学校訓導)
- 幹事 内野徳隆(=嘉一郎・左左衛門・蔵敷村戸長)
- 幹事 石井権左衛門
- 会員 数名
- 昇隆学校訓導内野吉治
- 昇隆学校生徒

でした。



衆楽会開講式

(東大和市史資料編 10 p 56)



## 衆楽会のその後

昇隆学校で行われた衆楽会の学習会がその後どのように発展していったのかは不明です。東大和市史は

「ここには、古い因習にしばられている姿は見えない。老若男女が学びあいながら、村あげて開化していこうとする旺盛な積極性があふれている。実態がどれだけ伴ったものになったかは十分明らかではないが、東大和地域の一角に、明治維新から十年後の一八七〇年代という早い時期に、こうした人びとの新しい姿をとらえることができるのである。

それはまた、南・北・西多摩の三多摩全体のエリアのなかで自由民権運動史をとらえてみた場合、実はもっとも早い動きとして注目される。神奈川県下でも活発な活動を展開した三多摩の自由民権運動では、五十余りの結社が誕生しているが、その最初のスタートを切ったといえるのがこの衆楽会であった。」(東大和市史 p 265)

としています。

### この年の自治の動き

- ・ 7月 22 日、郡区町村編成法、府県会規則、地方税規則の三新法を公布
- ・ 11 月、神奈川県では戸長選挙規則を布達、戸長の選出を公選制とした(武蔵村山市史下 p123)
- ・ 11 月 18 日、砂川源五右衛門が北多摩郡長に任命される(武蔵村山市史下 p122)

◎幹事役の内野奎左衛門は 23 才、翌・明治 12 年(1879)から神奈川県議会議員に当選して活躍の場を拡げます。

◎深沢権八は 18 才、村用掛として村政に関わります。

◎千葉卓三郎は 27 才、明治 11 年 4 月から 12 年 1 月ごろにかけて草花村の開明学舎に教員として在職していたことが確認されています。(秋川市史 p1140)

## 3 新聞の回覧と自由民権

### 蔵敷村新聞購読社

衆楽会の発足に刺激されて、村人達の間には、政治をはじめ時事の動きを敏感に捉えようとする動きが生まれました。新聞は高価でした。そこで始まったのが共同で購入、回覧読みです。明治 14 年(1881)1 月 1 日、内野奎左衛門を中心として 8 名による「蔵敷村新聞購読社」が結成されました。メンバーは次の通りで→の順番に廻りました。

内野奎左衛門→内野長吉→内野吉次郎→鈴木泰蔵→鈴木重蔵→小島関太郎→小島吉次郎→石原権右衛門。鈴木重蔵が会計係を担当しました。

仕組みは、毎月一人 15 錢ずつ出し合って、二日二夜で読んで次の会員に回しました。新聞は郵便で取り寄せました。読む新聞は

- ・「曙新聞」、「読売新聞」から始まり、
- ・「驢尾団子(きびだんご)」「人情雑誌」、「面白奇聞」
- ・明治 14 年 9 月から 15 年 3 月まで「朝野(ちょうや)新聞」
- ・その後は「東京横浜毎日新聞」

になりました。「朝野新聞」「東京横浜毎日新聞」は民権派新聞として、この面の情報提供源として

読まれたようです。演説会に講師の派遣をして居ます。

五日市憲法の里の深沢文庫(あきる野市)の役割が大きかったように、東大和市史は「民間の図書館と位置づけることができる」としています。しかし、厳しい経済状況と「当時の農業に従うものの、新聞を読む暇も無いほどの厳しい農業労働」(大和町史 p 369) が重なったのか、明治 16 年(1883)に解散しています。

### 内野家

この時代に活躍した内野家に残る文書は多くあり、特に、「里正日誌」は各市から歴史資料に引用されるほど内容が豊かです。東大和市の文化財に指定されています。これらの文書が保存されているのが右画像の「内野文庫」です。



(関係資料が保管されている内野文庫)

内野家は、「慶長七年(一六〇二)以前より、現在の蔵敷に居住していたといわれる。内野家が蔵敷村の里正、すなわち名主役に就任したのは寛延二年(一七四九)からである。」とし代々壱左右衛門を名乗ります。中でも、里正日誌の編者と目され、特に自由民権運動に関わったのは「嘉一郎」と命名された諱徳隆、号秀峰の壱左右衛門です。

- ・安政三年(一八五六)に敷隆の子として生れ、嘉一郎と命名された。
- ・明治三年(一八七〇)十五歳で名主見習となり、同五年(一八七二)十七歳で戸長となった。
- ・明治十二年(一八七九)二十三歳で第一期神奈川県会議員となり、同二十年(一八八七)まで八年間議員を勤めた。
- ・その間、同十三年二十四歳のとき国会期成同盟に参加し、翌十四年自治改進黨にも参加した。
- ・この頃、新聞購読会を結成し、民権系の「曙新聞」「東京横浜毎日新聞」「朝野新聞」などの回覧や民権運動の普及に努めた。
- ・明治二十二年(一八八九)三十三歳より昭和三年(一九二八)七十二歳まで高木村外五か村組合議員と大和村会議員に連続当選し、実に三十九年間にわたり公共に尽力したが、
- ・昭和五年(一九三〇)三月二日、七十四歳で死去した。(東大和市史資料編 7p15)

### 高木村新聞購読・回覧グループ

新聞購読・回覧グループは、明治 13 年(1880)、高木村でも行われていました。「宮鍋庄兵衛家、清五郎家、尾崎宇兵衛家の三軒で新聞を共同に取り、一軒で読み終わると子守女が届けに行った」と大和町史は伝えます。(大和町史 p369)

### 新聞購読と村の自由民権

明治 13 年(1880)から明治 16 年(1883)まで続いた新聞購読は丁度、東大和市域で自由民権学習演説会が行われる時期と重なります。大和町史は次のように記しています。

「このように明治十三年代に期せずして新聞回覧グループがあちこちに出来上ったということからの中に、村に新聞が入ってくる一つのきっかけが自由民権運動にあったことを思わせる。政治とは縁

遠かった村が、自由民権運動にまきこまれ、それをきっかけとして新聞が入ってくる。そのことはまた村の中の一部の人であろうが政治意識の高まりを生み出し自由民権運動、更には県会政治に少なからぬ関心をいだかせて行ったであろうことは疑いない。」(大和町史 p 369)



高木村新聞購読・回覧グループの大まかな位置を図にすると、丘陵の麓から空堀川の南までになり、この間を新聞が行き来したことになります。

### 明治 13 年の動き

- ◎ 1 月 17 日、八王子に第十五嚶鳴社が設立される。(相沢源七 千葉卓三郎の生涯 p 106) (起草者たち p19) 五日市町史は 1 月 7 日とする。(p691)
- ◎ 明治 13 年(1880)4 月、五日市学芸講談会発足(五日市町史 p695)
- ◎ 7 月、浅草で行われた政談演説会に内野嘉一郎出席、卓上演説をする。
- ◎ 11 月 10 日、第二回国会期成同盟大会開催、憲法見込案持参研究が定められた(五日市町史 p694)
- ◎ 12 月 10 日、自由改進黨盟約を起草 (内野家にあり=自由党準備段階)
- ◎ (千葉)卓三郎の秋川谷の足どりははっきりしないが、明治十一年頃からこの谷に入り、二、三の学校を転々とした形跡がある。そして明治十三年春から五日市町と館谷、入野、深沢三村の共立小学校である勸能学校に勤務することになり、その居も五日市町内に移している。(石井道郎 戸倉物語 p59)

## Ⅱ 東大和の自由民権演説会

### 1 政談演説会、政治結社への参加

明治 12 年(1879)、神奈川県会が開設され、その動きに合わせたように、各地で政談演説会が開かれます。「人民自治の精神」「自主の権利」をテーマとする民権思想の普及を目指し、併せて運動家相互の連携を深めました。

いち早く反応したのが内野左衛門でした。明治 13 年(1880)7 月、浅草で演説会が開かれます。神奈川県会議長、野村県令が出席していました。その会に出席した内野左衛門は、県会議長、県令と交わり、両関係者と懇親会を開くことを計画するまでに至りました。同日、卓上演説をしたと伝えられます。

#### (1) 国会期成同盟への参加

明治 13 年(1880)11 月、築地で第二回国会期成同盟大会が開かれました。東大和市域では内野左衛門が参加し、自由党結成準備会にも出席しました。明治 14 年(1881)に自由党が結成され、東大和市域では内野左衛門、鎌田喜三郎、尾又高次郎、川鍋八郎兵衛の 4 名が黨員になりました。

#### (2) 政治結社への参加・自治改進黨の結成

明治 14 年(1881)代には、政治結社の結成が進みます。

- ・ 1 月、西多摩では、神奈川県民権運動家が「武相懇親会」を開き、やがて政治結社「融貫社」になりました。
- ・ 北多摩では 1 月 15 日、府中高安寺で嚶鳴社の肥塚龍らの参加を得て北多摩郡の懇親会が開かれました。その席で、自治改進黨が結成されることになりました。北多摩郡全域を組織範囲とする民権結社で、140 余名が参加したとされます。

社長には砂川源五右衛門、副社長に吉野泰三、幹事に本田定年・中村克昌・比留間雄亮・中島治郎兵衛・板谷元右衛門が選ばれています。規則第 1 条には

『人民自治の精神を養成し漸を以て自主の権利を拡充せしめんとするに在り』

と書かれています。この結成には内野左衛門が深く関わり、内野家には「自由改進黨盟約」が残されていて、「自治改進黨」に至る間の経緯に注目が集まっています。東大和市域では、芋窪(川鍋正茂)、蔵敷(内野左衛門・内野吉次郎)、奈良橋(鎌田佐一郎・関田安太郎)、高木(宮鍋庄兵衛)、狭山(関田桑右衛門)の各村から 7 名が参加しています。

### 2 芋窪学術演説会 明治 14 年(1881)5 月 6 日

衆楽会の学習、新聞購読、民権結社参加と村人達の学習と活動が進む中で、周辺では、府中、調布、小川村などで自由民権を求めての学術、政談演説会が開かれてきました。明治 14 年(1881)3 月 25 日、中藤村(武蔵村山市)真福寺で演説会が開かれました。

東大和市内では同年 5 月 6 日、芋窪の昇隆学校で学術演説会が開かれました。

- ・ 発起人は「渡辺・内野・河鍋」の 3 人(自治改進黨メンバー)で、

- ・ 弁士に、民権派ジャーナリストとして人気の高かった東京横浜毎日新聞の「吉岡育造」「竹内正志」が招かれました。
- ・ その後に「有志者討論会又ハ座上演説等」が催され「頗ル盛会」（東大和市史資料編 10 p 62）とされます。

演説会の状況は当時の東京横浜毎日新聞が次のように伝えます。

「去る六日は、神奈川県下北多摩郡芋久保村の演説会に当るを以て、弊社の竹内正志、吉岡育の二人が其招きに応じ、同村昇隆学校に於て学術演説を為せしに、聴衆無慮百余名場中立錐の地なき程なりし、此会を開きたるは専ら渡邊、内野、河鍋諸氏の尽力に依る・・・」として、会場溢れんばかりの人々が集まったことがわかります。



現在の社務所

但し留意すべき事があります。当日の内野左衛門の日記です。「頗る盛会としながら、八王子警察署長、箱根ヶ崎分署長が視察し、「集会条例範囲内」での集会であったこと、今後暫くの休会を提案したこと」を記します。（東大和市史資料編 10 p 62）と

背景には、明治 13 年(1880)4 月 5 日に制定された集会条例の規定（集会開催の事前の許可、集会解散権、軍人、教員、生徒の集会参加禁止）が現場に及び、「暫くの休会提案」は、狭山丘陵周辺にも集会に対する何らかの取り締まりの気配が出てきていることが伺えます。

### 3 千葉卓三郎の来村

芋窪で学術演説会が行われた頃、奈良橋村に千葉卓三郎(仙台藩士)が来村し、鎌田家に滞在しました。深沢村(現・あきる野市五日市)の観能学校の教師であり、「五日市憲法」の草案づくりを指導した人です。

#### 奈良橋村滞在の根拠

千葉卓三郎の奈良橋村在村の根拠は鎌田家に滞在して、深沢権八宛に 3 通(①明治 14 年 5 月 15 日、② 7 月 13 日、③ 9 月 15 日・推定)の書簡葉書をに出していることと鎌田家の墓碑にあります。

|    |    |  |                               |
|----|----|--|-------------------------------|
|    |    | 学術演説会                                  |                               |
|    |    | 傍聴無料                                   |                               |
| 四月 | 幹事 | 四右<br>方久<br>有保<br>志村                   | 同弁<br>士吉<br>岡竹<br>育内<br>正志    |
|    |    | ノ昇<br>諸隆<br>君学<br>来校<br>聴二<br>ア於<br>レテ | 武<br>開州<br>北多<br>摩<br>二<br>付郡 |
|    |    | (内野秀治家文書)                              |                               |

- ①は自分が不在であっても観応学校の授業を進めてほしい。
  - ②は集会条例などにより公務員の自由な言論が制約されているとの現状批判。
  - ③は狭山円乗院で行われる自由懇親会への深沢の臨席依頼。
- いずれも発信地が奈良橋村で、この間、千葉の奈良橋村在村が確認できます。

### 奈良橋村での千葉卓三郎の活動

在村中には、東大和市周辺の自由民権運動の理論的指導をしたことが考えられます。後に紹介する9月25日開催の狭山自由懇親会への深沢への出席依頼からには、その係わりが推測できます。

また、千葉が作成した演説草稿と推測される文書が東大和市史資料編(10p67)に紹介されています。



(奈良橋 鎌田家)

「自由ノ理明カナラザレバ  
民権起ラズ、民権起ラザレバ

自治ノ气象振ハザルナリ、自治ノ气象振ハザレバ知識焉(いづく)ンゾ進ムヲ得ンヤ、・・・速ニ国会ヲ開キ、立法ノ大権ヲ人民ノ手ニ掌握セシメント・・・」と国会開設への強い意思が示されています。

### なぜ東大和市に？

丁度、五日市憲法草案作成が山場に来ている段階でした。その時、まとめの中心で指導者である千葉卓三郎がなぜ奈良橋村の鎌田家に滞在したのかについては、二つの資料を紹介します。

鎌田家には喜三(訥郎)、喜十郎、弥十郎の三兄弟がいました。

喜三 鎌田喜三郎としげの間の長男として、文久2年(1862)4月20日

喜十郎 慶応元年11月9日生

弥十郎 明治元年8月17日生(明治18年、18才で五日市町の岸家へ養子に入る)

### 石井道郎氏

「彼の五日市の住居は五日市町三二番地、隣家三三番地は鎌田屋(現存する)と呼ばれる家で、この家の本家は奈良橋村の豪農である。「先生、うちの本家には年頃の男の子が三人もいる。その家庭教師でもやったらー」と鎌田屋の主人が斡旋したとしても自然な成行ではないか。(戸倉物語 p61)

.....

実は今一人、死後まで卓三郎を慕った若者がいた。それは、千葉が明治十四年五月、五日市を飛び出してから、家庭教師をした北多摩郡奈良橋村の豪農鎌田家の二男坊喜十郎で、その当時十六才。

卓三郎はこの若者の知的な渇きを癒してやったものとみえる。接触した正味の期間は何か月でもあまるまいのに喜十郎は生涯卓三郎を我が師と仰ぎ法律の修学を志した。不幸にして彼もまた結核で夭折しているが、鎌田家では、その遺言にもとづき墓に千葉の名を刻んだ。(戸倉物語 p74)

## 相沢源七氏紹介の手紙

明治一四年七月一四日 白鳥恒松より千葉卓三郎宛

・・・(前文略)○彼の婦人の事も伊藤道友之所へ立寄実否を探偵仕候処、全ク宮城県迄彼ノ婦人参向之上、貴君の御親兄千葉彦右衛門方へ参り、貴君の事を御尋ニ相成り候由ニ承り、又伊東ヲ訪ひ候得共、伊東ハ留守ニテ御面会セザル事ニ承り候。故ニ婦人も帰京仕候由。其外種々探偵仕候得共、別ニ変りなき方より過日ノ送書ニ上ケズ。尤も伊豆野迄ハ婦人参向セズ、宮城より立戻リシコトニ承り候。早々不侍。

千葉様

七月十四日 白鳥拝

(相沢源七 千葉卓三郎の生涯 p76)

## 鎌田喜三

明治法律学校で法律を学んでいた喜三と千葉卓三郎は意気投合し、狭山丘陵の南麓にさらに力強い自由民権運動のうねりを起こしたと考えられます。喜三には略歴が残されています。

「九才ニシテ村塾ニ入り漢書及ビ習字ヲ研究ス、十五才ニシテ東京ニ留学セシコトヲ欲シ、人ヲ以テ父ニ乞ヒシモ、留学生ノ風習悪シキヲ患ヒ、早キヲ以テ名トシ免サレズ、然レドモ其念慮禁スル能ハズ、窃ニ父ノ金ヲ奪ヒ、夜ニ乗ジテ東京ニ逃走セリ、

・・・、高林○峰ノ門ニ入り漢書及ビ習字ヲ研究ス、幾何モナクシテ同門ヲ辞シ、同人社ニ入り、英学及ビ漢書ヲ研究ス、夫ヨリ明治法律学校ニ入り法律学ヲ研究ス、留学スルコト都合五ヶ年、明治十四年、板垣伯自由党ヲ組織スルヤ進ンデ同(推定)党ニ(加)盟セリ

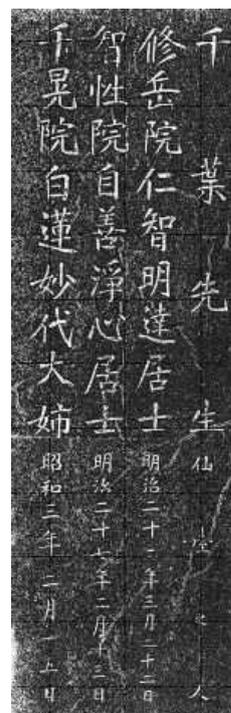
(明治十)(推定)六年、撰レテ村会(議員)(推定)トナル・・・」

千葉卓三郎が奈良橋村に滞在したとき、喜三は 20 才で、自由黨員になっていました。千葉が力を入れて、9 月に開かれた狭山自由懇親会では、その発起人の一人になっています。

## 鎌田家墓誌

千葉卓三郎が晩年病に倒れ、入院中その枕元へ足繁く通い、明治 16 年(1883)11 月に亡くなったとき、最期を見届けたのが鎌田喜三(訥郎)の弟の喜十郎でした。当時、喜十郎は「湯島の法律学舎に寄宿」していたこともあって、千葉の入院していた東京大学付属病院へ見舞ったのでしょうか。

鎌田家の墓地に「千葉先生 仙台の人」と刻まれた墓碑があります。喜十郎が明治 22 年(1889)4 月に亡くなる折、「自分の墓に千葉先生と刻んで欲しい」と遺言したとされます。千葉と喜十郎は深い師弟関係にあったことが無言で伝えられます。



#### 4 狭山自由懇親会 明治14年(1881)9月25日 円乗院

芋窪で開かれた学術演説会に引き続いて、明治14年(1881)9月25日、狭山村円乗院において自由懇親会が開かれました。発起人は高木村の宮鍋庄兵衛と奈良橋村の鎌田喜三でした。

#### 千葉卓三郎が力を注いだ

その案内は次ページ右図のようになされました。千葉卓三郎も力を注いだと思われる懇親会の内容は、明治14年(1881)9月28日の東京横浜毎日新聞に次のように記載されました。

狭山村で開かれた懇親会 明治十四年(一八八一)九月

「去る廿五日は、神奈川県下北多摩郡狭山村円乗院に於て、宮鍋庄兵衛、鎌田喜三等の諸氏が発起となりて該地方有志者を会し自由懇親会を催ふさるるに付、弊社の赤羽萬二郎も其招きに応じて出席したるが、

生憎濛々たる宿雨の尚ほ未だ晴れず、道路の泥濘殊に甚しかりしにも関はず、参集したる有志者は殆ど二百名なりき、

斯くて午後三時に至り、鎌田氏が起つて該会を開くの旨趣を述べられ尋(つい)で会員諸氏の演説あり、且つ赤羽は席上二題を演じ了りて、全く散会となりしは同八時頃にてありしと云ふ」(『東京横浜毎日新聞』明治十四年九月二十八日)

#### 奈良橋・高木・狭山地域に点火された

発起人に高木村の宮鍋庄兵衛が名を連ね、会の趣旨を鎌田喜三が述べるなど、主体が奈良橋村から高木、狭山地域に置かれていることがわかります。また、千葉卓三郎が関わっていることが深沢氏宛に書いた手紙からわかります。

「一弊居、村山狭山村円乗院ニテ本月廿五日ニ自由親睦会相開き、櫻鳴社諸君を相招き候間(中島君ハ越後路へ御出ニ付、不得止)、御都合次第御責臨ヲ仰キ候」

また、次のような演説草稿が残されており、千葉の草稿とも考えられています。

#### 自由ノ理明カナラザレバ民権起ラズ

「諸君ヨ、我々ハ今日此ノ自由懇親会ヲ該地ニ開カント欲シ、新聞紙ニ広告シ、又激ヲ有志ノ紳士ヘ送リテ招待セシトコロ、諸君ハ霜雨ニシテ道路ノ悪シキモ厭ハズ、又饗筵ノ粗ナルヲモ嫌ハズ、陸続来会セラレシハ、実ニ我々ニ於テ辱クセリ、

抑モ我々ガ此会ヲ開キシ所以ハ、自由ノ理明カナラザレバ民権起ラズ、民権起ラザレバ自治ノ氣象振ハザルナリ、自治ノ氣象振ハザレバ知識ヲ進ムヲ得ンヤ、故ニ諸君ノ既ニ知ラルトコロノ櫻

|   |  |      |       |
|---|--|------|-------|
| 明<br>治<br>十<br>四<br>年<br>九<br>月<br>懇<br>親<br>会<br>(内野秀治家文書) | 但<br>本<br>日<br>会<br>正<br>費<br>十<br>名<br>二<br>金<br>時<br>式<br>来<br>拾<br>場<br>錢<br>ノ<br>事 | 諸成ヲ今 | 懇親会廣告 |
|   |  | 君シ北回 |       |
|   |  | 陸以多同 |       |
|   |  | 続テ摩志 |       |
|   |  | 来一郡相 |       |
|   |  | 会日狭謀 |       |
|   |  | アノ山リ |       |
|   |  | ラ楽村茲 |       |
|   |  | ンヲ円ニ |       |
|   |  | コ尽乗九 |       |
| トサ院月  |  |      |       |
| ヲンニ廿  |  |      |       |
| ト開五   |  |      |       |
| スキ日   |  |      |       |
| 、、ヲ   |  |      |       |
| 請席ト   |  |      |       |
| フ上シ   |  |      |       |
| 有演本   |  |      |       |
| 志説会   |  |      |       |
| ノヲ  |  |      |       |

鳴社員、赤羽、渡辺ノ両君ヲ饗シ、我地方ノ有志者ヲ鼓舞セシメ、併セテ両君ト主義ヲ同フセラルル諸君ト共ニ懇親ヲ結バント欲スルガ為ナリ、

而シテ我々が今ココニ両君ヲ招待セシハ決シテ他ニアラズシテ、唯両君ノ執ラルルトコロノ主義、我々ト同シキヲ以テナリ、諸君試ニ見ヨ、今日三府三十七県、所トシテ自由ノ声アラザルハナク、地トシテ権理ノ光ヲ放タザルナク、又如何ナル僻陬ノ地ト雖ドモ、速ニ国会ヲ開キ、立法ノ大権ヲ人民ノ手ニ掌握セシメント欲セザルナキハ、実ニ両君ノ誘導ニヨリテナリ、此レ則チ我々が此ノ宴ヲ開キ有志諸君ト共ニ懇親ヲ結バント欲スル所以ナリ、謹テ渡辺、赤羽ノ寿ヲ為ス如此」(東大和市史資料編 10p67)



狭山村 円乗院

円乗院での自由懇親会が終わり、弁士赤羽は円乗院から近くの宮鍋庄兵衛家へ泊まりました。そこへ関係者が集まり夜を徹して語りあったようです。

当日出席した、内野左衛門は日記に次のように記しています。

「廿五日曇又雨、正午ヨリ狭山村円乗院ニオイテ懇親会相開候ニ付、川鍋来ルニ付同道セリ、弁士赤羽万二郎来臨、会員七十名也、各席上演説アリ、夜ニ入宮鍋庄之助方江演者止宿ニ付罷出、談話致シ深更帰宅」(内野左衛門日記)

新聞記事と出席人数が異なることも実情を知る上で大切な記録です。



高木村 宮鍋家周辺

## 5 奈良橋自由懇親会

懇親会の名で開かれる自由民権演説会は、ついに狭山丘陵の北側からの参加を得て行われました。

明治14年(1881)11月21日、奈良橋学校で行われた「自由懇親会」です。主催、参加者が「村山郷十六ヶ村有志者」「埼玉県入間郡有志者」へと拡大しています。



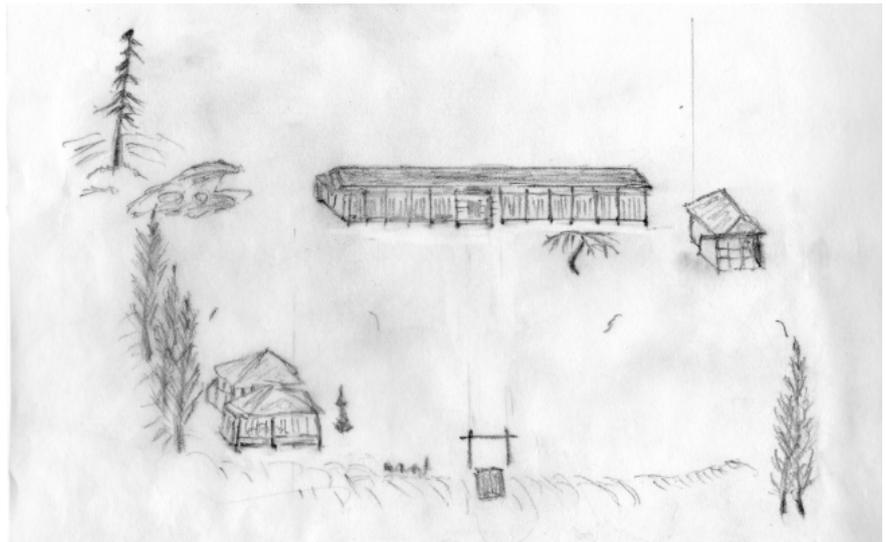
奈良橋村 雲性寺

## 参加者の地域が広がった

明治14年(1881)11月24日の『東京横浜毎日新聞』が次のように伝えています。

「去る廿一日神奈川県下北多摩郡奈良橋村奈良橋学校に於て開きたる懇親会は、同郡村山郷と称ふる十六ヶ村有志者の首唱に出たる者にして、弊社の島田も参会したり、

此地は境を埼玉県下入間郡に接するを以て、同県下の有志者中より来会せられたる人あり、



奈良橋学校イメージ図

(雲性寺住職李桃浄海 明治14年5月をもとに作成)

折節此地方は地租改正の調査ありて、之に関する人には有志者の中にも已むを得ず欠席せられしが、之れにも拘らず出席員は数十人の多きに至り、席上の演説等もありて中々盛会なりし、此会を初めとして爾後申合せの規約を定め、永く之維持するの見込なるよし」(『東京横浜毎日新聞』)

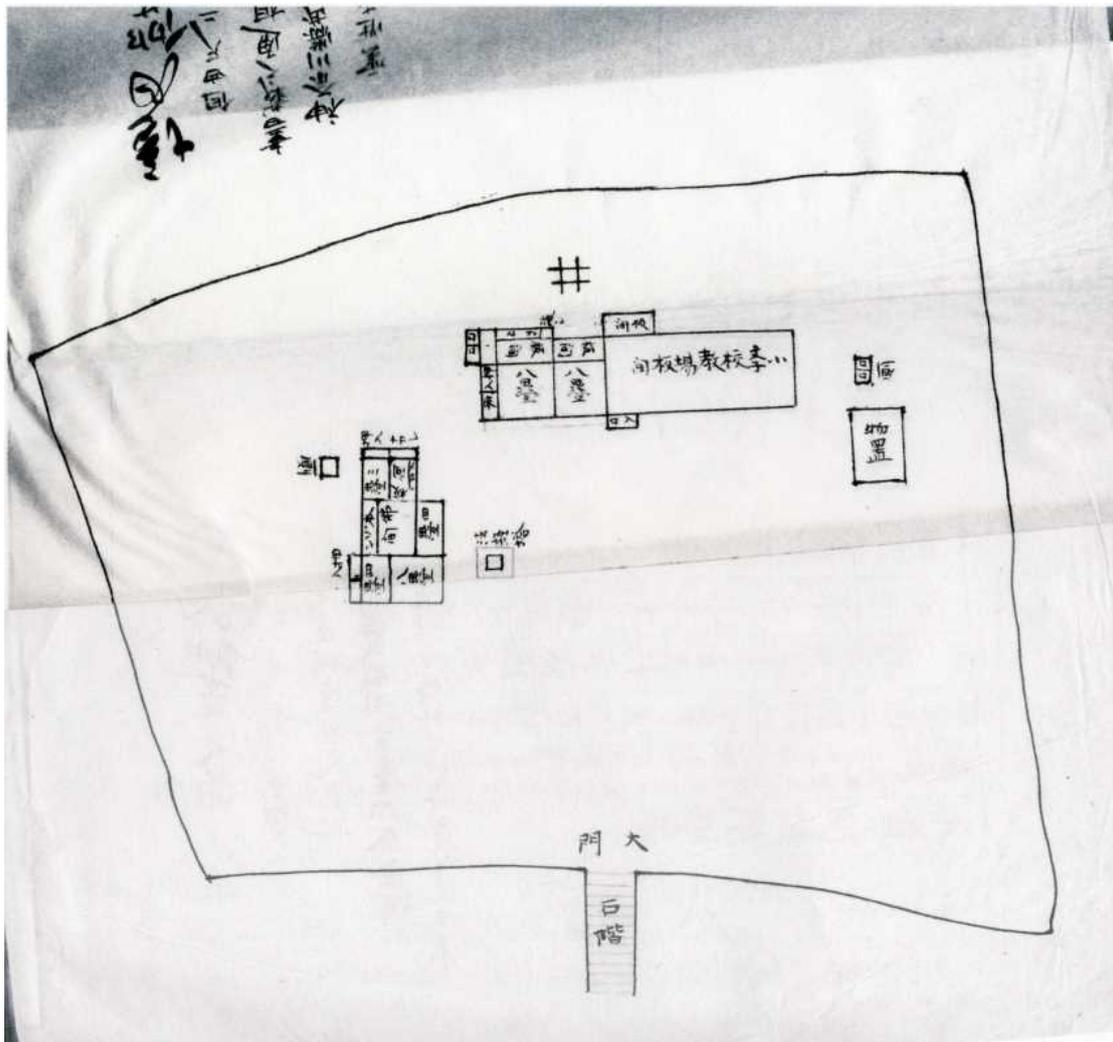
参加した具体的な村名は不明ですが、狭山丘陵南麓の村々と北側に境を接する埼玉県の村々の有志が集まっています。当時、山口村には海蔵寺を会場として「睦交社」が結成されており、その方々も参加されたのでしょうか？ 残念ですが、この時定められたとする規約については確認されていません。



## 会場は板の間と八畳二間

それぞれの地域で、自治の実現に向かって活発に行われた学習会、懇親会、演説会ですが、その会場は至って素朴でした。

地域を狭山丘陵周辺全域に広げて行われた会場である奈良橋学校のイメージ図、平面図が雲性寺に保存されています。ご住職の好意でスケッチさせて頂きました。この場で熱気溢れる議論が戦わされ湧き上がったことを思うと、スケッチの手が震えました。



(奈良橋学校（雲性寺）平面図)

## 6 その後

懇親会は地域を広め、11月28日には府中高安寺で三多摩懇親会が開かれさらに高まりを見せました。引き続き、地元では、翌、明治15年(1882)2月13日、箱根ヶ崎村(瑞穂町)、14日に中藤村、5月5日に三ツ木村と開催が継続されます。一方で

- ・明治14年(1881)1月5日、府中の松本楼で自治改進黨結成への提案
- ・明治14年(1881)1月15日、府中の高安寺自治会新党の総会開催⇒自由党結成準備
- ・明治14年(1881)10月18日、自由党結成
- ・明治17年(1884)10月29日、自由党解散

この過程で地域の政治指導者と政治運動の若者間に空気が変化してきます。

- ・加えて明治19年(1886)三多摩の東京府移管問題が玉川上水のコレラ騒ぎを契機として浮上してきます。

## 路線の対立

- ・明治20年代に入ると、神奈川県議会で急進派と穏健派が対立するなど地方の政治情勢は変化しました。東大和市域でも、内野左衛門、鎌田喜三(訥郎)間に路線のきしみが生じ、次の時代へと

移ります。

### 明治地方自治制度の整備

様々なエネルギーが交差する中で、

- ・明治 20 年(1887)、内務省に地方自治制度の検討機関が設けられ、
- ・明治 21 年(1888)4 月、市制町村制が公布され、22 年 4 月 1 日施行されます。  
明治国家型の地方自治制度が整えられました。
- ・明治 22 年 (1889) 2 月 11 日、大日本帝国憲法公布、明治 23 年 11 月 29 日施行
- ・明治 22 年 (1889) 4 月 1 日、東大和市では「高木他五ヵ村組合村」の設置願いを提出、6 月 6 日に  
成立しました。

◎千葉卓三郎はこの状況を目にすることなく、明治 15 年(1882)、31 才で亡くなります。

◎内野嘉一郎は明治 20 年(1887)、32 才で神奈川県会議員を止めます。その後は地元の村政に力を注ぎます。

◎鎌田喜三は明治 22 年(1889)、28 才で神奈川県会議員となります。

◎深沢権八は明治 21 年(1888)、28 才で神奈川県会議員となり、明治 23 年(1890)30 才で亡くなります。

### Ⅲ自由民権の里探訪



東大和市の自由民権に関する史跡は、上図の通り狭山丘陵の南麓に沿って東西に広がります。

衆衆会が開かれた蓮花寺は、村山貯水池の建設により、芋窪地域の南部に移転しています。

今回、これらを全域を探訪することは時間的に困難であり、奈良橋・蔵敷地区に限って、次ページのようにルートを設定しました。

## 奈良橋市民会館集合

- **千葉卓三郎墓誌**(千葉先生・仙台の人、千葉卓三郎を師と仰ぎ慕った鎌田喜十郎の遺言による)

↓

- **鎌田家**(鎌田喜三＝訥郎 豪農、同人社、明治法律学校卒、村会議員、石坂昌孝と交流、明治22年(1889)神奈川県会議員、千葉卓三郎が滞在、弟に鎌田喜十郎と茂十郎。茂十郎 五日市町岸家の家督を継ぎ、忠左衛門を襲名。五日市町長)

↓

- **雲性寺**(真言宗豊山派、中藤真福寺末、石川地頭墓、狭山三十三観音十八番札所自由民権演説会奈良橋学校跡、絵図が貴重)

↓

- **太子堂跡**(聖徳太子像をまつる。江戸時代寺子屋跡、石原伴鳳碑、明治最初の学校)

↓

- **内野家**(内野左衛門・名主・戸長、自由民権運動、神奈川県会議員、里正日誌)



(現在の太子堂)

- **内野文庫・郷土史料庫**

東大和市指定文化財『里正日誌』を中心とする古文書や縄文土器、板碑、什器など郷土の歴史に関する資料を保存。

代々蔵敷村の名主、明治維新後は自由民権運動、地方自治の推進者として活動。

明治12年(1879)内野嘉一郎・左衛門

(内野家と内野文庫)

は北多摩郡から初めて神奈川県議会の議員に選出される。吉野泰三(現・三鷹市)と交流。

明治14年(1881)1月、民権結社「自治改進黨」結成の際に主体的に参画。同年10月、自由党結成され、芋窪村の川鍋八郎兵衛、尾又高次郎、奈良橋村の鎌田喜三と参加。生涯を通じて多摩の自由民権、自治運動を指導。

↓

- **農兵訓練場跡**(ペリーの来航等を契機として、治安の悪化、文久3年(1863)江川支配の幕府領に限り農兵の設置を認めた。農民が銃砲の取り扱い、実弾射撃訓練、自由民家運動の指導者の多くが農兵の幹部経験者)

↓

## 奈良橋市民会館解散

### 注

文中、年齢の表記は基準を各人の誕生年を1才として計算しています。そのため、他資料と異なる場合があります。